

2023年度 大阪電気通信大学高等学校 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 めざす学校像

(1) 教育目標

- 一. すべての生徒に確かな知識を与えよう
- 一. 人間の生き方を教える教育をしよう
- 一. 心身ともに健康な生徒を育てよう

(2) 各科・コースの特長 (2023年度のコース)

普通科

進学総合コース

高大連携プログラムを通して、自分の適性を探究する。大阪電気通信大学進学を基盤に、理系・文系の学びを通して、幅広い進路選択を行う。

アドバンスコース (選抜)

2学年より難関私立大学合格のためにアドバンスコースを1クラス編成する。普通科のカリキュラムをベースとして、志望大学にあわせた学力を身につける。

メディア情報コース

普通科のカリキュラムをベースとして、画像処理、CG、サウンド、Web等のメディアに関する様々な表現方法を学ぶ。大阪電気通信大学総合情報学部ゲーム&メディア学科をはじめ、文系・理系を問わない多様な進路を目指す。

健康スポーツコース

学習と部活動を両立させ、スポーツを通して健康科学を学ぶ。大阪電気通信大学健康スポーツ科学科をはじめ、体育・スポーツ系、医療・福祉系などへの進学を目指す。

工学科

工学理数コース (1年生・2年生) / 理数コース (3年生) (特進)

工学科専門科目を通して、思考力と実践力を養い、電子情報技術を習得する。数学、英語、理科を中心に学力を強化し、国公立大学や難関私立大学などへの進学を目指す。

工学連携コース(1年次)

共通科目を1年間学ぶ。大阪電気通信大学見学会やコース説明会などを通じ、2学年からのコース選択にそなえる。

医療電子コース

医療と工学を学ぶ。大阪電気通信大学へ進学することで、臨床工学技士、理学療法士を目指すことができる。

デジタルゲーム開発コース

C言語プログラミングにてゲームプログラミングの基礎と応用を学び、ゲーム開発エンジンを用いて3Dゲームを開発する。大阪電気通信大学デジタルゲーム学科等への進学を目指す。

ロボット機械コース

2足歩行ロボットの製作を通じて、機械、センサー、電子回路、プログラミングの知識と技術を習得し、大阪電気通信大学電子機械工学科、機械工学科等への進学を目指す。

IoT情報通信コース

ワンボードマイコンを用いた実習を通してIoTの基礎と活用を習得し、大阪電気通信大学電気電子工学科、情報工学科、通信工学科、情報学科等への進学を目指す。

2 中長期的目標

重点方針 「生徒・保護者に選ばれるための、学力向上と一人ひとりの能力を伸ばす高校づくり」

- 大阪電気通信大学との連携
- 生徒の学力向上
- 生徒の人間力向上
- 授業の質の向上
- ICTを活用した教育の推進
- 女子受験生からも選ばれる学校づくり
- 教育の質向上に繋がるPDCAサイクルの確立
- 離学者の低減
- 在籍者の確保

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業を大切にし、 確かな知識を与える	●魅力ある授業を展開し、学力向上と離学率の低減を目指す。	ア・授業アンケートを活用し、授業の質を高めていく。 イ・生徒との面談、家庭との連絡を密にする。	ア・授業アンケートの「わかりやすく、理解しやすい」「総合的な評価」各項目のパーセンテージの上昇。(2022年度:「わかりやすく、理解しやすい」強く思う 42% 思う 30% 「総合的な評価」強く思う 42% 思う 30%) イ・離学率 3%未満	ア・2023年度授業アンケート結果「わかりやすく、理解しやすい」強く思う 44%(+2%) 思う 30%(±0) (○) 「総合的な評価」強く思う 44%(+2%) 思う 30%(±0) (○) イ・離学率 5.2%(×) 単年度での離学率だけでなく、3年間の離学率減少も目指していく。
心身ともに健康な生徒を育てる 人間の生き方を教え、	●基本的な生活習慣を確立させる指導を行う。 ●マナーや礼儀の指導を行う。 ●非行を未然に防止する。 ●課外活動等を通じて学校の活性化を図る。	ア・基本的な生活習慣を確立させる。 イ・交通ルールを守らせ、自分のみならず他人の生命をも尊重させる。 ウ・いじめを防止する。 エ・課外活動を奨励する。 オ・資格検定取得や部活動での活躍を促す。	ア・皆勤賞数を全体の 20% (卒業まで各授業の欠席・遅刻・早退もない皆出席) ・遅刻者数は生徒一人年間 1 回 イ・交通事故 0 件 ウ・いじめ指導処分件数 0 件 エ・部活動部員数が全生徒数の 3 分の 1 オ・生徒活動奨励賞 60 件	ア・379名中 29名 (7.7%) (×) ・遅刻者数のべ 2421名 (×) イ・交通事故 1件 (×) ウ・いじめ指導処分件数 0件 (○) エ・在学者数 1182名中 463名 (○) オ・生徒活動奨励賞 93件 (○)
生徒一人ひとりに適した 進路を実現する	●生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談、キャリア教育を行いながら、進路について目標を立て実現に向かう力を育成する。	ア・個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行い、希望進路の実現をさせる。また高い進学率を達成する。(懇談等で、一人一人きめ細かい進路指導を実現する。進路の手引きの有効活用や、保護者向け進路説明会等で、希望進路実現に向け意識を高める。また外部模試を全員受験し進学意識を高める。) イ・「総合的な探求の時間」を活用したキャリア教育(オープンキャンパスへの参加、資格取得の奨励、志望動機の確立等)の企画実施。併設の「大阪電気通信大学」の体験授業、体験実習、その他文系大学の体験授業を行い、興味、関心、適性の模索を行う。	ア・進路決定率 95%以上 4年制大学進学率 70%以上 進路説明会各学年 1回以上の実施、大学/専門学校説明会(3学年)の実施 外部模試(年 3回)実施 イ・大阪電気通信大学、その他文系大学の体験授業を行う。 大阪電気通信大学の体験実習を行う。	ア・進路決定率 96% (○) 4年制大学進学率 75% (○) 大阪電通大説明会(各学年 1回)、大学/専門学校説明会(3学年)の実施(○) 外部模試(年 3回)の実施(○) イ・体験授業の実施(○) 体験実習の実施(○)

<p>志願者にとって魅力的な学校をめざす</p>	<p>●事業計画および活動計画に基づき、十分な入学者数を確保する。</p>	<p>ア・入学者を確保する。 イ・女子生徒の割合 (2021年度 2.5%、2026年度 5%)を増やすべく、魅力ある学校づくりを目指す。</p>	<p>ア・入学者数 400 名 イ・女子生徒の割合 3.5% (2026 年度には 5.0%)</p>	<p>ア・入学者数 333 名 (×) イ・女子生徒の割合 3.9%(○) ※2024 年度入試における入学者では 13 名/333 名。 その結果全校では 4.7% 51 名/1079 名 となった。 施策検討の結果 →2024 年度は女子向け冊子を作成し、女子生徒の声を反映させた冊子を募集活動に活かす予定。</p>
<p>安心安全な教育環境の整備と持続可能な学校運営をめざす</p>	<p>●事業計画および活動計画に基づき、教育の充実や生徒募集に資する環境の整備を進める。 ●業務の効率化を進め、少子化が進展する中でも持続可能な学校運営に努める。</p>	<p>ア・体育館空調設置 体育館に空調が設置されておらず、毎年夏期には熱中症が発生し、生徒にとって危険な状況となっていた。 イ・サーキュレーター設置 教室の空調効果の改善と、一部教室に設置されていた天井扇を安全確保の観点から撤去。 ウ・工学科実習室、大会議室（自習室）、ブラウジングルームに視聴覚設備を整備。 エ・大会議室（自習室）内装工事 オ・二酸化炭素濃度計と網戸設置 (建物環境測定において、教室の授業中の二酸化炭素濃度が、ビル管法の既定値 (1,000ppm) を2倍以上上回る数値を示していることが報告された) カ・飛び地の整備 キ・旅費精算、経費精算の電子化 ク・複合機更新</p>	<p>ア・空調設備の設置 イ・サーキュレーターの設置 ウ・視聴覚設備の整備 エ・内装工事を完了し、自習室として運用を開始 オ・設置完了 カ・整備実施 キ・「楽楽精算」の運用開始 ク・更新によるコストダウン</p>	<p>ア・エアコンの設置工事を実施し、完了した。(○) なお、体育館での熱中症による救急搬送はゼロであった。 イ・後援会の支援により、全普通教室、予備教室にサーキュレーターを設置した。(○) ウ・整備完了 (○) 予定していた本校の視聴覚設備の整備は全て完了した。 エ・後援会の支援により内装工事を完了し、定期テスト前に自習室として生徒の開放することができた。(○) オ・二酸化炭素濃度計と網戸を全教室に設置し、二酸化炭素濃度を目安に換気ができるよう整備した。(○) カ・飛び地を人工芝化し、教育活動の場所として整備した。(○) キ・昨年度末に移行準備を進め、2023 年 4 月より運用開始。(○) ク・3 社の性能・機能調査、合見積の結果、年間約 100 万円のコストダウンを達成した。(○)</p>

4 学校関係者評価委員会（議事録）

開催日時: 2024年10月5日（土）13:30～14:45

開催場所: 大阪電気通信大学高等学校 第1応接室

出席者: (学外) 杉村委員 山根委員 横山委員

(学内) 麻野委員長 松原委員 唐原委員 小谷委員 内田委員 岡村委員 白石委員 坂本委員

「2023年度の取り組み内容および自己評価」および各種アンケート結果（教職員・保護者・生徒・授業アンケート）等をもとに、学校関係者評価委員会の学外委員（地域代表、保護者代表、卒業生代表）から以下の「学校関係者評価委員会での意見」を頂戴した。

学校評価アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの分析	学校関係者評価委員会での意見
<p>【生徒】 (2023年度全学年対象授業アンケート・2023年11月実施分) (2023年度卒業生対象生徒アンケート・2024年1月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『国語の授業』『体育の授業』が充実していた」との意見が多かった。また「クラスは居心地が良かった」との声が多く、生徒たちの心理的安全性は比較的確保されていると考えられる。 ・体育館の空調設備新設やトイレの改修などを行っているが、校舎が老朽化しており「学校施設全般が充実していた」の項目は例年どおり低い評価となっている。 ・「電通高校生としての誇りを持つことができた」の項目が特に当年度において低調となっており、このことは教職員が真摯に受け止めるべきである。教職員の生徒に対する接し方、言葉づかいなどにももう少し注意を払うべきではないか。 ・生徒は納得感のある指導を求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の生活態度も昔に比べると格段に良くなっている。駅と学校を登下校する生徒について町会の中でも評判が良く、問題を指摘する声はない。 ・以前、危険なブロック塀があったが、町会の要望に対して学校がすぐに対応してくれた。感謝している。 ・生徒にとって、教師は大人が想像する以上に怖い存在である。他校に目を向けると、対応が丁寧に感じられる学校も多い。生徒に対する接し方をテーマにした教員研修なども必要であろう。 ・生徒のなかには校則の見直しを求める声もあるようだが、高校生としての身だしなみや適切なスマートフォンの利用、自転車の正しい乗り方などは今後とも指導していただきたい。
<p>【保護者】 (2023年度卒業生保護者対象アンケート・2024年1月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホームページやさくら連絡網によって必要な情報が有効に発信されていた」の評価が高く、学校から家庭への連絡については満足度が高い。 ・「電通高校に入学させてよかった」の項目は例年どおり高い評価となっている。また「教員の保護者への対応が適切であった」との回答も多い。 ・高校入学後の子どもの成長に感謝する声も多かった。 ・「学校施設・設備が充実していた」については低い評価となっている。併設大学との設備面での差を指摘する声も散見された。 ・保護者目線では「授業が分かりやすいようであった」の評価が低い。現状に甘んじることなく、「すべての生徒に確かな知識を与えよう」の教育目標のもとに教育力の向上を図ること、保護者の信頼を得ることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任によって多少の差はあるが、さくら連絡網の活用をはじめ学校からの連絡については保護者として大変助かっている。 ・保護者としては学校での子どもの様子が見たい。授業参観などの実施についても検討をお願いしたい。 ・女子生徒数が増えたことに対して、女子更衣室の使用スペースを増やしたり、錠前を使いやすくしたりと学校が適切に対応している。 ・学力の低い生徒に難易度を合わせがちな授業があると子どもからは聞くが、それでは授業の進捗に影響が出るのではないかと。一方で高得点が取れないことから生徒のモチベーションを下げている授業もあると聞く。学習意欲の高い生徒に対してもさらなる対応を期待する。 ・教員が気さくに生徒に接するのは良いが、「先生が生徒にここまで言っているのか」と保護者が疑問に感じるほど、学校の内情などを生徒に話す人の中にはいるようだ。誤解を与えないよう気をつけることが望まれる。
<p>【教職員】 (2023年度学校評価アンケート・2024年3月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「各種会議の機能」「カウンセリング体制」などの自己評価が向上した。 ・「在校生、卒業生は学校に誇りをもっている」「人権教育の研究体制」「校内美化」「スポーツや芸術文化活動」「生徒指導」「進路指導」「地域社会や中学校からの評価」「受験指導の調査・研究」「生活習慣の指導」などの自己評価が下降した。 ・教員のコメントの中には本校の強みとして「大学との連携」「ICT」「持続可能な学校運営のために経営面や生徒募集に関して意識の高い教職員が増えている」「学力向上に対する取り組みがさらに進みつつある」といった点を挙げるものがあった。 ・「教員間での情報の共有」や「スローラーナーへの指導に対する課題」を指摘する声も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ではすべての案件に教員が対応するのではなく、スクールカウンセラーによる対応など、学校が生徒相談室を活用していることが理解できた。制度整備により、悩みを持つ生徒が相談しやすくなってきたこともわかった。 ・以前は学校周辺のごみ拾いをする生徒が良く見られたが、最近こういった活動が減っているようだ。当該活動は地域住民に大変良い印象を与えているので、実施していただけると嬉しく思う。 ・タブレット端末の使い方などについて時代に合わせて指導方法を考えなければならないが、所属コースやクラスなどによって指導方針に大きな差が生じないように、適切に指導されたい。